

資 料

平成 20 年度事業計画

2008 年 4 月 1 日

財団法人日本セーリング連盟

財団法人 日本セーリング連盟
平成 20 年度事業計画

平成 20 年度 JSAF 実行計画と基本方針

実行計画

1. JSAF 財政再建 財政健全化プロジェクトの実施
 - ・ 増収対策検討小委員会 活動
 - ・ 分析削減検討小委員会 活動
 - ・ 増収対策各種プロジェクト実施
2. JSAF 会員増強 会員増強プロジェクトの実施
 - ・ 普及委員会との連携施策検討
3. JSAF 勝利にむけて
 - ・ 北京オリンピックのメダル獲得と複数種目の入賞
 - ・ ナショナル・トレーニングセンターの実現に向けた活動
4. JSAF 組織の確立
 - ・ 指定管理者制度の導入など
 - ・ ハーバー・マリーナへの加盟または賛助会員の働きかけ
5. 国際セーリング競技規則の改定と資格認定・更新の実施
6. JSAF イベントの成功 海の日に向けた環境キャンペーン
7. JSAF 外洋レースの活性化と組織強化 IRC の導入
8. JSAF ジュニアの強化 スポーツマンシップと指導とジュニアセーラーの普及
9. 各種レースの普及 特徴ある楽しいレースを促進 水域やクラブへの働きかけ
10. 東京オリンピック招致 2016 年東京オリンピック実現に向けて

基本方針

普 及

- ・ 会員の増強 水域別目標、加盟団体との連携、大学やクラブ OB の勧誘
- ・ 会員の増強 日本財団事業との連携、バッジテスト検討
- ・ 組織の確立 指定管理者制度、継続性の検討(高体連・学連・一般)
- ・ 財政健全化 分析削減検討、組織の見直し、補助金活用
- ・ 財政健全化 増収対策検討、賛助会員の獲得、セーリングスクール連携

文 化

- ・ 指導者の育成 ジュニアの指導、スポーツマンシップとフェアプレー
- ・ 環境活動 環境キャンペーン、
- ・ 広報活動 オリンピック広報、外洋レース、地方のレース
- ・ 海の日 環境キャンペーン

- ・特徴あるレース 地方メディアとの協力、阿波踊り/川中島合戦など
- ・アメリカズカップ情報収集

勝利

- ・2008 北京オリンピックのメダル獲得と複数種目の入賞
- ・2016 東京オリンピック招致に向けた活動
- ・大分国体 秋田国体から導入した少年男女 SS 級への支援
- ・新潟国体 リハーサル大会
- ・ナショナル・トレーニングセンター設立に向けた働きかけ

総務委員会（委員長：中山 明）

1. 連盟組織運営基盤の整備
 - (1) 公益法人制度改革への適確な対応をする。
 - (2) 加盟団体と特別加盟団体との機能的役割の見直しをする。
 - (3) 組織実態が把握できる運営態勢の構築をする。
 - (4) 加盟する団体の権利と義務内容の具体化を検討する。
2. 諸規程の整備
 - (1) 委員会の業務内容を連盟運営規則へ記載し、理事会組織の運営能力を高める。
 - (2) 現行規程、規則の実態に合わせた改正を図る。
3. 業務合理化の推進
 - (1) メンバー登録手続の簡素化と継続メンバー確保策を IT 委員会と協調して推進する。
 - (2) 連盟資料のデータベース化を促進し、業務内容の高質化・高能率化を目指す。
 - (3) 各委員会業務と事務局業務の分担を整理・明確化し、堅実で能率のよい運営を目指す。
4. 表彰関係活動の充実
 - (1) 連盟表彰を組織の活性化促進策として規程に則り、実施する。
 - (2) 外部への表彰機会を逃さず対応し、セーリング活動を通じた社会的貢献の成果を PR するように努める。
 - (3) 外部団体より表彰された会員の表彰記録を整備し、組織活性化に活用する。

会計委員会（委員長：安藤 淳）

1. 各事業の会計報告が速やかにできるようにする。
2. 予算執行の適正な管理を行う。

財務委員会（委員長：石橋國雄）

1. 健全な財政確保を目的とする。
2. 各方面からの協力者を開拓する。

国際委員会（委員長：戸張房子）

1. 国際セーリング連盟（ISAF）会議へのカOUNシルに委員派遣
 - （1）ミッドイヤーミーティング 2008. 5. 8～12 チンタオ（中国）
出席予定者 大谷たかを
 - （2）年次総会 2008.11. 6～16 マドリッド（スペイン）
出席予定者 大谷たかを、柴沼克巳、小林昇、戸張房子
2. ORC リミテッド会議へのコングレスメンバー派遣
年次総会 2008.11. 6～12 マドリッド（スペイン）
出席予定者 河野博文、小林昇
3. ISAF 委員（任期 2009～2012）およびカOUNシル改選の年につき、現委員または新委員の推薦手続き
4. アジアセーリング連盟会議への JSAF 役員派遣（開催未定）
5. 国際的な情報収集およびその情報の迅速な提供
6. 日本から海外へ情報発信
7. 競技力向上委員会と協力し、日本ででのセーリング普及を推進するために ISAF が始めたコネクト・トゥ・セイリング・プロジェクトおよびユース・セーリング・プロジェクトの導入推進
8. オリンピック特別委員会と協力し、オリンピックセーラー育成、ゴールドプラン実現のための国際情報収集・提供。海外 MNA との友好関係の構築・強化、交流の促進
9. ルール委員会、レース委員会、ワンデザイン計測委員会と協力して、ルールおよびレースマネジメントに関する情報収集、ならびに IJ, IU, IRO, IM の育成サポート
10. パラリンピック、スペシャル・オリンピックスに関する情報収集

広報委員会（委員長：大山俊哉）

1. 「J-SAILING」の編集・発行
 - （1）「J-SAILING」を年間 6 回発行とする。
 - （2）全 32 ページ、カラーとする。
 - （3）広報委員会（柳沢編集長）にて自主編集とする。
 - （4）今年度は、北京オリンピック関連の情報の拡充を図る。
 - （5）発注先や方法の見直しにより、発行経費の削減に努める。
 - （6）発送は「宅配方式」を継続する。
2. ホームページの充実・活用
 - （1）引き続き、充実を図り、会員への情報提供・交流の場として活用していく。
 - （2）J S A F として必要な情報と、広報的に考えて必要な情報の充実を図る。
 - （3）今年度は、北京オリンピック関連の情報の拡充を図る。

3. 報道機関に対する広報対応
 - (1) 報道機関の「セーリング担当者リスト」の改訂・活用。
 - (2) 報道機関に対する J-SAILING の送付。
 - (3) 報道機関とのコミュニケーション・親交を図る。
 - (4) 記者会見等の開催。
 - (5) 広報資料・キットの配布。
 - (6) 「記者懇談会」の実施の検討。
4. 会員への広報活動・メリット還元 (J-SAILING / HP 以外)
5. セーリング全体の認知・イメージアップのための広報活動
 - (1) メディア・CM等への積極露出。
 - (2) 一般客が多いエリアでのレース観戦・レース告知への協力。
 - (3) 国体・プレ国体等の報道関連協力 (報道部)
 - (4) JSAF 主催・共催イベント等への協力、広報活動。
 - (5) ボートショーでのイベント開催。
6. 事業開発委員会との連携による販売増への貢献
 - (1) J-SAILING 誌面上におけるグッズ通信販売の検討
 - (2) JSAF・HP 上でのグッズのネット販売の検討

事業開発委員会 (委員長：平賀 威)

1. 委託販売制度の確立

各加盟団体、特別加盟団体、各水域ヨットクラブ、各マリーナショップ、業者、商品のパッケージ化の検討など。
2. ショップ販売の拡大

大分国体会場、国際ボートショー会場、加盟団体主催レース表彰式・パーティ会場、加盟団体イベント会場、JSAF 講習会会場、葉山ニッポンカップ、ジャパンカップ、JSAF 新年会、北京オリンピック選手壮行会、関東ヨットマンズクラブパーティ会場、その他レースイベント会場など。
3. JSAF ロゴ入り商品を開発検討

トレーナー、ポロシャツ、Tシャツ、ハイテクインナー、キャップ、タオル、トートバッグ、ライフジャケット、サングラス、アクセサリ、タンブラー、記念品、賞品 (カップ・トロフィー・楯)、シーズンズグリーティングカードなど。
4. ロイヤリティビジネス (JSAF ロゴマーク使用許諾権) を賛助会員への働きかけの検討
5. J-SAILING とのジョイントによるグッズ (ブランド商品) の通信販売、または予約販売制度の検討
6. ネットショッピング導入の研究 (受注・販売・配達・代金回収)
7. イベントの開催の企画・運営についての検討 (北京オリンピック選手壮行会)

8. 2008年 JSAF オリジナルカレンダー（小型）の製作および評価
9. 月次商品別売上実績、月末在庫の確認および滞留在庫の減額
滞留在庫（エンサイン小、ステッカー、長ピン四角パッチ、クラブバージ、ロープ式バージ、携帯防水ケースなど）

ドーピング裁定委員会（委員長：柵橋善克）

1. ドーピング違反事件の発生時、随時委員会を開催する。
2. 医事委員会に協力して、アンチドーピング思想の啓蒙を推進する。

レース委員会（委員長：名方俊介）

1. レースオフィサー認定講習会（試験）の実施
2. レースオフィサー等有資格者のためのレース運営セミナーの開催
3. 外洋艇レースマネージメントマニュアルおよびトレーニングキットの作成、ならびに外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の企画（外洋統括委員会と共同）
4. レースオフィサー・トレーニングキットの改正と充実（CRO、NRO および ARO）
5. 競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制の確立
6. ヤードスティックナンバー（2008年版）の発表
7. チームレースの普及・支援活動
8. マッチレースの普及・支援活動
9. 管理水面における安全対策および危機管理マニュアル等の充実
10. レース運営の省力化、記録・成績表作成作業の効率化および近代化の研究
11. JSAF 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援体制の構築
12. その他
13. 上記各事業達成のためのレース委員会活動

レースオフィサー小委員会（委員長：長塚奉司）

1. レースオフィサー制度の維持・管理（資格更新等の検討、レースアドバイザー制度の確立を含む）
2. 更新講習会、認定講習会、試験の計画と実施（講師の養成を含む）
3. ルール改定に伴うレース運営資料等の整備
4. レースオフィサー等有資格者のためのレース運営関連セミナーの計画と実施
5. 外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の実施と資格管理（外洋統括委員会と共同）
6. レースオフィサー・トレーニングキットの改訂、充実と管理（CRO、ARO および NRO）（レースマネージメント小委員会と共同）
7. 競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制の確立
8. ISAF インターナショナル・レースオフィサーに関する情報の管理

9. その他

レースマネジメント小委員会（委員長：大原博実）

目標：広告および主催に関して、ルールに基づいたレースが全国展開されることを目標とする。

1. 重点的取組事項

- (1) JSAF 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援
(新規項目：国体ブロック予選の共同主催承認手続き)
- (2) 広告規定（主催者広告と個人広告）に関しての手引書の充実および適切な広告運用の啓蒙
- (3) 全日本大会等の JSAF 公認審査について、事前審査システムの制度化
- (4) 記録作業の効率化と近代化、成績表作成ソフトの充実とその管理・運用
- (5) レースオフィサー小委員会等と連携して、改訂ルールに基づくレースマネジメント・マニュアルの研究

2. 継続的取組事項

- (1) 管理水面における安全対策、および危機管理マニュアル等の充実
- (2) レース公示、帆走指示書、大会運営マニュアルの研究
- (3) ヤードスティックナンバーの調査・研究・普及
- (4) ISAF に対する JSAF レース委員会からの質問および提言
- (5) 広告カテゴリーを中心に各クラスルールの収集整理・研究
- (6) ホームページ、J-SAILING 掲載記事、ホームページ Q&A 掲載用回答の作成
- (7) レースオフィサーニュースの発行（メール配信）

チームレース小委員会（委員長：松原宏之）

1. レース運営全般の調査、研究（レースマネジメント小委員会と連携）
2. チームレースの指導育成と普及
3. 担当レースオフィサーの育成
4. 全日本大会・帆走指示書ガイドの作成
5. その他

マッチレース小委員会（委員長：一木正治）

1. レース運営全般の調査・研究・普及
 - (1) マッチレースセミナーを開催（JYMA 主催）
 - (2) ユースの育成（具体的な計画は現在検討中）
2. マッチレース・マネジメント・マニュアルの完成と充実
海上運営部分は一応完成しているのでこの充実を図るとともに、パート 2 としてレー

ス企画・開催等大会運営部分を作成予定とする。

3. 担当レースオフィサーの育成
個々に希望者を募りながらマッチレース実戦の場で OJT を行う。
4. 全日本大会・帆走指示書の雛形作成と充実
5. JSAF と当該協会等の連絡・調整
6. その他

ルール委員会 （委員長：川北達也）

1. RRS 邦訳文作成
スポーツ競技団体の根幹である『国際競技規則（RRS）』をナショナルオーソリティ（NA）として日本国内の会員へタイムリーに展開する。
2. ルールブック発行
3. ルール関連資料邦訳発行および在庫管理
Case Book・ISAF 規定、MR Call Book、TR Call Book の邦訳、JSAF 規定英文作成
4. ルール関連書邦訳（ジャッジマニュアル、アンパイアマニュアル）および在庫管理
JSAF 認定の NJ / NU のレベルアップおよび判断標準化によるセーリング競技大会の質的向上を図る。
5. 国内 IU / IJ 育成支援、アジア地区ジャッジアンパイア養成支援
JSAF の IJ は高齢化で減少し続けている。早期に次世代の IJ を育成し、世界での JSAF の位置づけを高める。
6. ナショナルジャッジ・ナショナルアンパイア認定、および更新講習会開催および認定証発行
7. JSAF 主催大会へのジャッジ派遣
8. JSAF-Web / J - SAILING へのルール情報展開
9. ジャッジ制度改定
10. ルール講習会支援
11. ルール委員会会合費補助

ワンデザインクラス計測委員会 （委員長：末木創造）

1. ERS 改正（2009 年）に伴う翻訳チームの立ち上げと翻訳作業
2. ワンデザインクラス計測委員会の拡充
3. 各クラス協会等との関係の調整と確立
4. ワンデザインクラス計測委員会のホームページの充実
5. ワンデザインクラス公式計測員規程の施行に伴う
 - （1）各クラス計測講習会の実施を推進
 - （2）各クラス公式計測員の承認・認定証の交付と名簿管理

- (3) ERS 講習会の実施
- (4) 各クラス等 ERS に基づくオフィシャル・メジャラーの承認・認定証の交付と名簿管理
- 6 . JSAF 運営規則・ディングー系全日本選手権大会に基づく計測条項実施のための各クラス計測用紙 (計測項目等一覧表) の作成
- 7 . 国体およびリハーサル大会の計測部員の推薦と計測運営マニュアル等書式一式当該年度版への修正作業
- 8 . その他

競技力向上委員会 (委員長 : 箱守康之)

競技力向上委員会はオリンピック特別委員会と連携し、次世代を担う選手の育成・強化を行い、世界に羽ばたく選手を送り出すために以下の事業を行います。

1 . ジュニア・ユース競技力向上事業

(1) 海外派遣事業

- ア . 2008 年度ユース・ワールド選手権大会派遣
2008 年 7 月 10 ~ 19 日、デンマーク (Aarhus)
- イ . 470 ジュニア・ワールド選手権大会派遣
2008 年 7 月 21 ~ 29 日、ポーランド (Gdynia)
- ウ . 470 ジュニアサマーキャンプ
2008 年 7 月 30 ~ 8 月 7 日、ポーランド (Gdynia)

(2) 国内強化事業

- ア . 2008 年度ユース・ワールド派遣候補選手強化合宿兼代表最終選考会
 - ・ 2008 年 5 月 3 日 ~ 5 日 (和歌山県) レーザー・ラジアル・RS : X 級
 - ・ 2008 年 5 月 3 日 ~ 5 日 (佐賀県・唐津) 29er 級
- イ . 470 ジュニア・ワールド日本代表選手選考会
 - ・ 2008 年 5 月 17 ~ 18 日 (和歌山県)
- ウ . ユース・ワールド代表選手強化合宿
 - ・ 2008 年 6 月 (和歌山県/佐賀県) 種目 : レーザー/ラジアル/RS:X 級/29er 級
- エ . 2009 年度ユースナショナル候補チームの認定
 - ・ 2008 年 5 月開催 JOC ジュニアオリンピックカップ、9 月開催 JSAF 和歌山 INT レガッタ、江の島オリンピックウィークおよび競技力向上委員会、艇種別協会の推薦により決定
 - ・ 各水域で実施するジュニア/ユース対象の大会により決定
- オ . 同ナショナル候補チームの強化合宿
 - ・ 2009 年 3 月上旬 (和歌山 NTC 予定)

* オリンピック特別委員会と連携した NT トップ選手による指導

- (3) 国内大会およびクリニックの開催
 - ア . ジュニアオリンピックカップ (JSAF ユースチャンピオンシップ)
2008 年 5 月 3 ~ 5 日、佐賀県唐津
 - イ . JSAF 和歌山インターナショナルレガッタ 2008
2008 年 9 月 (未定)
- (4) ジュニア・ユース有望選手発掘事業 (ゴールドプランの推進)
 - ア . 全国高等学校選手権 (インターハイ、ジュニアオリンピックカップ、全日本大学選手権および OP 全日本選手権大会時に将来性を有する有望選手の発掘を行う)。
 - イ . 各年齢層の有望選手データベースの整備 (全国対象)
 - ウ . 各水域での一貫指導推進の指導者リストの整備 (全国 8 水域)
 - エ . 2012 年ロンドン五輪に向けたユース選手強化
- 2 . インターナショナルカテゴリーの推進
 - (1) 世界の基準に合致した年齢別カテゴリー (Under15、Under19、Under22、Over22)
の推進と国際艇種での合宿、イベントの推進
 - (2) カテゴリー別トレーニング方法の普及啓発活動
国体採用艇種及びインターナショナル・クラス
- 3 . 指導者マニュアルの完成に伴う指導体制づくり
 - (1) 指導者講習会の実施
2008 年度 JSAF 主要競技会開催時 (インターハイ、国体、オリンピックウィーク、OP 全日本、全日本インカレ等) に各指導者を対象に上記指導者マニュアルに基づいた一貫指導システム指導者講習会の開催
 - (2) 指導委員会と連携したゴールドプラン水域指導者研修会の実施
 - (3) オリンピック特別委員会と連携した NT 強化合宿でのエリア指導者研修の実施
- 4 . 医事・科学委員会と連携した医科学サポートの実施
 - (1) 身体成長期のジュニア・ユースに対して以下のサポートを実施
 - ア . 医科学サポート
 - イ . フィットネスサポート
 - ウ . トレーニングサポート
 - エ . 栄養サポート
 - (2) アンチドーピング活動
有望選手発掘事業および地域指導者講習会時にアンチドーピング啓発活動を実施
- 5 . その他
 - (1) 競技力向上委員会ホームページの整備と活用促進
 - (2) 和歌山 N T C (ナショナルトレーニングセンター) の活用

指導者委員会（委員長：小山泰彦）

1. 公認指導員養成講習会の開催
例年通りの内容で、2 水域で開催する（場所未定）。
2. 全国安全指導者会議の開催
（1）理事・役員の積極的参加をお願いし、連盟全体での取組みを発展させる。
（2）笹川財団、B&G 財団、日本舟艇工業会と密接な連携をとり、魅力ある会議とする。
（3）ボートショーに合わせて集客を狙う。
3. バッチテストシステムの検討
（1）19 年度に引き続き、以下のことを検討する。
（2）現システムの長所を生かしつつ、セーリングに携わるすべての者が保持することに誇りを持てるようなシステムの構築を検討する。
（3）バッチの取得をきっかけとして、セーリングの普及が図られ、さらに日本セーリング連盟のメンバーになることにも誇りをもてるようなシステムとなるよう検討する。
（4）新ルール等々、今の時代に即した対応をする。

レディース委員会（委員長：倭千鶴子）

1. セーリング体験
（1）毎年、根気強く開催することにより、全くセーリングにかかわった事のない、女性・ジュニア・中高年男女を対象とし、新聞・雑誌・ラジオ等のメディアによる広報を幅広く行い募集し、セーリング人口の増加・普及に努める。
（2）昨今の状況を踏まえ、中高年男女を対象にしたセーリング体験企画を実行する。
（3）セーリング体験参加者を対象とした会員登録の方法について考案し、承認を得て実施に努める。
（4）実施内容（平成 20 年 7 月中旬予定、参加者約 100 名、講師 30 名、スタッフ 10 名、使用艇ヤマハ 30 フィートクルーザー等）
2. チャイルドルーム
（1）大分国民体育大会にて実施予定
（2）新潟国民体育大会リハーサル大会にて実施予定
実施内容（セーリング協議会会場内、レディース委員 2 名、保育士 5～6 名）
（3）全日本学生女子ヨット選手権会場にて実施予定
実施内容（大会会場内、レディース委員若干名、対象者大会役員並び競技役員）
3. 対外活動
JOC ウィメンズ委員会、ジュースの会、等の会合に積極的に参加し、他のスポーツ団体より、女性の立場での情報交換を行い、今後のレディース委員会の発展に役立てる。
4. 主に、女子種目のセーリング競技大会等の実行委員会との連携を計り、女性役員が主

- 流となる大会を考案し、有能な女性委員を派遣することに協力する。
5. 国際委員会との連携により、ISAF ウィメンズコミッテイのより迅速な情報を得、女性役員のある方、継続性、女性セーラーの普及（国際的に通用する）、増加につとめ、またアジアにおける女性役員・セーラーの支援に貢献する。
 6. 女性の目線で熟考し、新しい企画など発案し（例：パーティ等イベント企画）JSAFの発展、資金調達に貢献する。

医事科学委員会（委員長：上原一之）

1. アンチドーピングに関する事項
2. 競技会における救護に関する事項
3. 安全の講習および公認コーチ講習に関する事項
4. 海外派遣選手に対する医学的指導、医師帯同に関する事項
5. 公認スポーツドクター、公認トレーナーに関する事項
6. トレーニングに関する事項
7. 選手の栄養に関する事項
8. その他特命事項

外洋統括委員会（委員長：古川保夫）

平成20年度外洋統括委員会の活動全体としては以下の3つの基本方針をもって行う。すなわち、JSAF外洋会員の拡大、外洋レース活性化、外洋組織の強化の3点であり、統括委員会および各委員会の活動を通してこれを実現していく。特に、統括委員会として重点を置く項目は、1) 会員拡大を目的としたセールナンバー登録推進活動、2) 外洋レース活性化に向けてIRCを艇子にした本格的な外洋レースの開催活動、3) 外洋組織の強化を目的とした外洋関連団体との積極的なコミュニケーションや継続的な外洋組織の将来プランの検討等である。

外洋財務・会計委員会（委員長：鈴木保夫）

1. 各委員会の会計報告が速やかにできるようにする。
2. 予算執行の適正な管理を行う。

外洋法制委員会（委員長：渡辺康夫）

1. 全国外洋艇体験乗船の規則の普及を図る。
2. 日本小型船舶検査機構（JCI）関連項目
 - （1）定期的な会議（小型船舶関係懇談会、年数回）を行う。
 - （2）小型船舶検査に関し世界の標準と日本の特殊性について徹底的に議論すると同時に相互理解を高める。

3. 国土交通省のプレジャーボート安全利用情報システムの構築に答申する。
4. 小型船舶備品の規制撤廃と、製品供給に関するキャンペーンを図る。
5. 国際海洋汚染防止条約の規制が世界では高まっている、日本セーリング連盟としての海洋汚染、環境対策への対応と啓蒙する。
6. 係留保管場所確保への対応を図る。
7. FRP 廃船リサイクルコース、廃船処理に向けた対応をする。

外洋海事思想普及委員会（委員長：都築勝利）

1. 外洋加盟団体のフラッグ製作を実現する。
2. 沖縄、小笠原レース写真集の発行を実現する。

外洋安全委員会（委員長：浪川 宏）

1. 外洋安全思想の普及を図る。
2. J S A F 特別規定の普及を推進し、特別規定カテゴリー登録の促進をする。
3. 各水域での特別規定B講習会の実施を促進する。
4. 小型船舶検査と特別規定カテゴリー宣誓との関連を調整する。
5. 安全トレーニング制度の拡充を検討する。

外洋計測・技術・ハンディキャップ委員会（委員長：林賢之輔）

1. 法制委員会と協力し、規制緩和に向けて、JCI に意見具申する。
2. 前年に続き、ISO 関連の作業に協力する。
3. IRC 小委員会と協力して、IRC の普及に努める。
4. JSAF 独自の PHRF の研究開発を目指す。
5. 委員会メンバーを再編成し明確にする。
6. 日本 ORC 協会との円滑なコミュニケーションを図り協力体制を探る。

IRC 小委員会（委員長：鈴木一行）

外洋系の国際レーティングである IRC レーティングの円滑な発行とレーティングを公正に運用することで外洋系ヨットレースのさらなる普及を図る。

1. スムーズな発行
 - (1) IRC 委員会の組織化を強化する。
 - (2) IRC 協力体制の整備 (IRC テクニカルコミッティー、メジャーラー、アドバイザー) を強化する。
2. レーティングの公正な運用
 - (1) IRC ルール (IRC ルール、IRC 計測マニュアル) の整備をする。
 - (2) IRC レーティング講習会を開催する。

3. 普及活動

- (1) 外洋加盟団体との連携による IRC レーティングの普及活動をする。
- (2) JSAF ホームページ、J-SAILING による情報の整備をする。

外洋レース委員会 (委員長: 小林 昇)

1. 本格的な外洋レース開催プロモーション活動をする。
2. JSAF レース委員会と連携して外洋レース開催諸規定の整備をする。
3. 外洋レース運営マニュアルの作成・整備を行う。

外洋セイルメジャラー部会 (委員長: 八木達郎)

1. JSAF セイルメジャラー更新講習会を関東・関西で開催する(2008年1~2月予定)。
講習内容(ERS及びIRC、ORCのセイル計測に関するルール変更確認)
2. IRC および ORC クラブのセイル計測マニュアルを修正・変更する。
3. セイルメジャラー部会の名簿改正および役員改選をする。

外洋ルール委員会 (委員長: 大村雅一)

1. ルール委員会と連携し、2008年度版外洋レース規則を作成・適用を図る。
2. RRS 改定にあわせ、ERS など外洋レースに関連する変更点を把握、理解と外洋メンバーに向けた啓蒙を図る。

外洋国際委員会 (委員長: 鈴木一行)

1. RORC 総会へ担当者を派遣する。
2. 国際的なセーリング情報収集およびその情報の迅速な提供を行う。

外洋通信委員会 (委員長: 足立利男)

1. レース委員会・法制委員会と連携して外洋レース使用通信手段の次世代展望を調査検討する。
2. 現行通信手段(国際VHFを含む)の評価と、必要であれば再構築を検討する。
3. 既存VHF無線局設備の適正な維持及び運営、およびレース運営に使用するための機器貸し出しを行う。
4. 海上におけるインターネット通信、GPSデータ通信など新しい通信手段の調査・検討を行う。

特命チーム

普及委員会 (委員長: 水谷益彦)

日本財団助成事業である

- (1) ジュニア、障害者、レディースセーリング体験教室
- (2) 教職員セーリング体験教室
- (3) ファミリーレース

の3事業を、各加盟団体に委嘱実施し、セーリングの普及を図る。

ジュニアセーリング体験教室	3箇所
障害者セーリング体験教室	3箇所
レディースセーリング体験教室	1箇所
教職員セーリング指導者養成講習会	2箇所
ファミリーレース	6箇所

全国ヨットハーバー、マリーナ・指定管理者連絡協議会を開催し、各地の実情を報告し、課題、問題点等を協議するとともに、今後新規に指定管理者を目指す団体にも情報提供を行い、セーリングの普及を図る。

関係組織協力委員会（委員長：長田美香子）

1. 国体開催期間の変更に伴い各クラス別協会における影響と日程の調整。
2. ヨット普及を考えヨットの楽しさ、ヨットレースの面白さを一般に広めるための方法を模索し、時にはメディアを使い各団体の理解と協力で事業を考える。
3. ヨット普及に伴い会員の増強を図る。
4. ゴールドプランにあるように、ジュニアから一般までの一環強化システムの構築を関係団体と調整し確立する。

- (1) ジュニアクラブレースへの協力体制づくり
- (2) クルーザーレースの協力方法の検討
- (3) ウインドサーフィン大会への協力方法の検討
- (4) 高体連・学連との調整、他
- (5) 各クラス別協会との調整
- (6) 各県連・クラブ等の行事への協力方法の検討

IT対策委員会（委員長：前田彰一）

平成17年度から適用が開始されたJSAF「メンバー登録および管理システム」の更なる活用を旨とす。4年制メンバーから単年度メンバーへの移行に伴うシステム検討、会費納入のシール方式など検討など、平成20年度は、加盟団体・特別加盟団体の担当者や関連する委員会の意見を集約し、登録メンバー登録および管理システムの見直しを行う。また、将来のデジタル社会の到来を踏まえ、ナショナルトレーニングセンター構想の討議に参加して、インターネットを利用した競技力向上や会員とのコミュニケーションによるSAF活動の活性化を検討する。

会員増強委員会（委員長：松原宏之）

連盟のさまざまな活動と併せて、他の委員会の協力の元、会員増強活動を展開する。
新しい会員を増やし、さらに流出者を極力減らす。

1. 会員へのサービスの強化（差別化）
 - （1）レース参加資格の見直しなど、関係委員会と会員増強策を検討・実施
 - （2）非会員との差別化を含む考察
2. 広報・普及活動
 - （1）非会員への勧告
 - （2）各クラブ・団体のメンバーに対する入会推進活動の強化
 - （3）各委員会構成メンバー、加盟団体役員等に対する会員登録の義務化
 - （4）現行会員に対してメールでの呼びかけ
 - （5）J-SAILING の有効活用
3. 会員登録
 - （1）会員の種類（IT委員会・総務委員会・会計委員会）の再考
 - （2）入りやすい会員の種類の検討
 - （3）会費・複数年/シルバー・ジュニア/指導者・サポーター
 - （4）会員登録手続きの簡素化・見直し
4. 情報活動
 - （1）各水域・加盟団体でやっている具体的な例の参集・意見の交換を図り、今後の方策を考察する
 - （2）画一的でなく地域・年齢に特化した方策
 - （3）ジュニア・県連・高体連・学連の間での会員増強（減少させない）考察
 - （4）4年会員が1年会員になる旨の連絡を行うことにより、4年会員の流出を防ぐ

B & G 海洋センター支援チーム（委員長：占部雄三）

平成 19 年度は B&G 海洋センター・クラブ関連の事業として、11 箇所、一般対象の事業として 3 箇所、計 14 箇所を実施、児童・生徒 550 名、指導者等 133 名、計 683 名の参加を得て成功裡に終了した。平成 20 年度は事業対象を分類別に、1) 財団主催 3 箇所、2) 自主開催 8 箇所（予定）、3) JSAF 関連 7 箇所（予定）の計 18 箇所を計画している。

東京オリンピック招致委員会（委員長：山崎達光）

2016 年東京オリンピックセーリング会場の計画・立案および ISAF との調整

特別委員会

オリンピック特別委員会（委員長：山田敏雄）

オリンピック特別委員会（以下オリ特委と称す）は、北京五輪でのメダル獲得、複数種目の入賞を達成目標に、五輪種目の艇種別候補選手の競技力向上を図るために策定した重点方針に基づき事業を実施します。オリ特委は、関係団体並びに JSAF 各委員会と連携し、選手を含め相互の努力によって目標達成ができる組織体制と、JSAF ゴールドプランに基づき世界の上位で戦える日本セーリング界の構築が大きな目標であります。

重点方針

- 1．北京五輪でのメダル獲得と複数種目の入賞
- 2．選手が強化活動をスムーズに行える環境の整備と体制造り
- 3．JOC ゴールドプランに基づく次世代を担う選手の育成・強化
- 4．事業別予算・実績管理の徹底と効率的な資金計画・運用

組織・役割

- 1．名 称：北京オリンピック特別委員会
- 2．組 織：オリンピック特別委員にマネジメント委員会、強化事業委員会、指導・評価委員会の三委員会を設けます。
- 3．オリンピック特別委員長および上記各委員会の委員長、副委員長から強化統括委員会を設置し、強化計画の立案などに当たります。
- 4．経験、学識、専門的知見を持つ方にアドバイザーを委嘱する予定です。
- 5．アテネオリンピックに向けて行なった募金活動を継続して行なう委員会を別途設けます。

平成 20 年度事業計画

平成 20 年度は重点方針の一番に掲げている「北京五輪でのメダル獲得と複数種目の入賞」を達成するための事業を推進すると事とし、併せて「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・強化も継続して行います。また、北京オリンピック終了後には 2012 年ロンドンオリンピックへの強化体制の早期構築にも取り組みます。

その他新たな事業として、

- ・ナショナルトレーニングセンター（NTC）の開設
 - ・JOC コーチアカデミー制度の導入
 - ・アンチドーピング推進連絡協議会（仮称）の設置
- に取り組む事とします。

1．北京オリンピック事業

（1）代表候補選手の事前強化策

2007 年 12 月 27 日に公示した強化策に沿い以下の事業を行います。

ア．3 月中旬～5 月、ヨーロッパ遠征を実施

派遣先：スペイン、イタリア、フランス、オランダ

オリ特指定のコア大会

- ・プリンセスソフィアレガッタ（スペイン） 3 月 15 日～21 日
- ・ガルダウィーク（イタリア） 4 月 7～13 日
- ・イェールオリンピックウィーク（フランス） 4 月 19～25 日

・ホーランドレガッタ (オランダ) 5月21～25日

注1) 艇種によってヨーロッパ選手権、その他大会へ参加

2) 必要がある場合、補欠選手所属先にはメダル獲得のための協力要請を行う

イ. 青島事前合宿

青島本番会場において代表選手の事前強化合宿を行います。

実施時期：7月9～20日の10日間

参加者：オリンピック代表選手およびBランク以上の選手が指定したセーリングパートナー、セーリング日本選手団役員(アディショナルオフィシャルを含む)

(2) 北京オリンピック大会(青島)

ア. 日本選手団の予定スケジュール

6月19日(木) JOC 派遣手続き

6月20日(金) JSAF 壮行会

7月9日(水)～20日(日) 青島事前合宿

7月21日(月) JOC 結団式

7月27日(日) 選手団出発、選手村入村、オリンピックマリーナ OPEN

8月8日(金) 開会式

8月9日(土)～23日(土) レース *22～23日は予備日

8月24日(日) 閉会式

8月25日(月) 選手団帰国

イ. 現地支援体制

青島に JSAF 現地本部を開設し選手への支援および来訪者への情報提供等を行います。

2. 次世代を担う選手の育成・強化事業

本事業は「競技力向上委員会」と連携して推進します。

海外派遣事業

国内強化事業

* 事業内容の詳細は「競技力向上委員会」事業計画を参照下さい。

3. 2012年ロンドンオリンピックへ向けての強化体制構築

北京オリンピックへの取り組みの総括選手・コーチ会議を9月和歌山で開催の JSAF 和歌山インターナショナルレガッタ時に開催、2012年に向けての強化体制の早期構築に取り組みます。

4. 2008年度新規取組事業

(1) セーリング競技別強化拠点(NTC)の開設

文部科学省の認定を受け、和歌山ナショナルトレーニングセンター(NTC)の開設に JOC、和歌山県と共に取り組みます。

- (2) JOC コーチアカデミー制度への取り組み
2008 年度スタートするコーチアカデミー制度を各都道府県セーリング連盟、艇種別団体に理解頂き、受講希望者を公募、選手強化コーチの充実を図ります。
 - (3) アンチドーピング推進連絡協議会（仮称）の新設
国および JOC の方針でトップアスリートからユース・ジュニア選手までドーピング検査を受ける機会が増大する事を受け、医事・科学委員会と連携し各都道府県セーリング連盟、艇種別協会代表の医師等による連絡協議会（仮称）を設置、正しい知識、情報の伝達を行うこととします。
- 5 . 自主計画事業
- (1) 2009 年ナショナルチーム選考と認定
 - (2) 国内強化活動事業
 - (3) 海外強化活動事業
 - (4) 海外遠征支援業務
 - (5) 管理関係業務
- 6 . その他
- (1) 広報活動の推進
記者懇談会の継続開催
 - (2) オリ特ホームページの充実
 - (3) ランキングシステムの推進
 - (4) スポンサー感謝デーの継続実施

国体委員会（委員長：昇 隆夫）

- 1 . 第 63 回国民体育大会大分国体セーリング競技の準備を推進し、競技方法および大会運営方法について検討を進め同大会を開催する。
- 2 . 新潟国体リハーサル大会の準備を推進し、大会開催について支援する。
- 3 . 第 64 回国民体育大会新潟国体セーリング競技の大会開催の準備を推進する。
- 4 . 千葉、山口、岐阜、東京都等の国体開催予定地の準備を支援する。
- 5 . 中央競技団体として国体開催予定地の視察及び指導・助言を行う。
- 6 . 少年男女の種目に秋田国体から導入したセーリングスピリッツ級について支援する。
- 7 . 平成 20 年大分国体から少年男女の種目に中学 3 年生の参加について推進する。
- 8 . 平成 20 年大分国体から導入したブロック大会予選について支援する。
- 9 . 日体協の国体改革に合わせ国体およびリハーサル大会の簡素化を進める。
- 1 0 . 国体イベント事業及び「見せる国体」について支援する。
- 1 1 . 各都道府県連盟に国体参加資格規定の周知を行う。
- 1 2 . 国体ウインドサーフィン級、セーリングスピリッツ級の普及活動を支援する。
- 1 3 . 国体艇種の大会開催について支援をする。
- 1 4 . 国民体育大会セーリング競技研修会を開催する。
- 1 5 . 国体ウインドサーフィン級の年度登録および管理を行う。

アメリカズカップ委員会（委員長：山崎達光）

第 33 回アメリカズカップの情報収集および新艇の R&D

環境委員会（委員長：岡田達雄）

「JSAF 環境キャンペーン」は、レースイベントにおける JSAF 環境横断幕の掲揚と、「海にゴミを捨てない」をルール化（帆走指示書に明記）は定着してきた。

- 1 .JSAF 関連団体主催のレースイベントにおける JSAF 環境横断幕の掲揚と帆走指示書へ「海にゴミを捨てない」ことの明記
- 2 . 上記に追加して全日本大会における JOC 環境横断幕の掲揚
- 3 . エコバッグの無料配布
- 4 . J-SAILING 紙面における「JSAF 環境キャンペーン」参加イベントの紹介
- 5 . JSAF 事務局における ISO14001（環境マネジメントシステム規格）の取得の検討
- 6 . 海の日環境キャンペーン